



## スピーカー: ジャールカンド反放射能同盟

インドのジャールカンド州ジャドゥゴダを拠点に活動する団体。何十年にもわたってウラン採掘に反対し、ウラン採掘がもたらす健康や環境への影響への理解を高め、放射線被害を受けた方のために正義を求めてきた。2005年に「核のない未来賞」を受賞。

---

## ガンシャム・ビルリ

こんにちは、ガンシャム・ビルリです。インドのジャールカンド州ジャドゥゴダ地区に住んでいます。ここではウラン採掘が行われています。地域には7つの鉱山があり、大量のウラン鉱石が採掘されています。精製工場もあり、ウランを濃縮する過程で、大量のウラン廃棄物も排出されます。ウラン会社はその廃棄物を村の沈殿池に捨てます。そのため多量の放射能が漏れ、地域の大きな問題となっています。放射能の影響は女性に顕著で、子どもが障害を持って生まれたり、死産したりしています。女性は中絶し、労働者には問題が起きています。ウラン会社の労働者も村の住民も結核や癌といった危険な病気に苦しんでいます。また多くの人々が腎不全に陥っています。

私たちはJharkhandi Organization Against Radiation(放射能に反対するジャールカンドの団体)を立ち上げ、これまで20年間、そして今も反対運動を行なっています。放射能は私たちの命にとって、私たちの環境全体にとってとても危険なものです。放射能は私たちの命にとって、私たちの環境全体にとってとても危険なものです。ウラン採掘によって人々は病気になる、同時にこの放射能は何年にも渡って環境を汚染し続けるのです。この空気は悪くなり、水は汚染され、土壌も悪くなりました。村は住むに値するような場所ではなくなりましたが、人々はそれに気づかず住んでいます。人々は放射能の問題を理解していません。科学的なことだからです。もし誰かがダムで溺れたり、火事で火傷を負ったりしたならば被害は一目でわかりますが、放射能は長期的な問題です。

広島と長崎の人々は放射能について知っています。痛みを経験したからです。放射能によって引き起こされる病気の痛みを。そしてその問題についてとてもよく理解しているのです。私の国の政府とウラン採掘会社はこの問題を認めようとせず、むしろもみ消そうとしています。村の人々は十分な教育を受けていませんが、放射能の問題を知るべきです。そしてウラン採掘が行われる以前のジャドゥゴダの人々の健やかな歴史、つまり病気はなく人々は長生きしていたということを知るべきです。しかしウラン採掘が始まって以来、人々の死が早まっています。これは私たちの社会において大きな問題です。

この動画を見ているすべての方に伝えたいです。世界中のどこであろうと、ウラン採掘が行われ、ウラン廃棄物が捨てられ、人々が影響を受けているのならば、その人々を援助してください。彼らが生き残るためには、反対運動を強化することが不可欠です。私たちの団体が求めること、それはウラン廃棄物が捨てられる地域に住む人々が安全な生活環境に戻れるべきだということ。放射能の影響を受けているすべての人はそれがこの地域の人であろうとウラン採掘の労働者であろうと補償されるべきだということ。そしてまた、私たちの地域でこれ以上ウラン採掘を行わない、ということも要求します。この地域の大気、水、土壌の放射能レベルの調査も行われるべきです。

## ドウムカ・ルムル

私はドウムカ・ルムルです。JOARという団体の幹事をしています。政府とインドウラン公社は



部族同士が争うよう誘導しています。ウラン公社が土地を奪いやすくなるからです。私たちの団体は彼らのいいようにはさせません。ウラン公社がどんな戦略を使おうとも大規模な運動をもって阻止します。皆さんにはインド政府に対して圧力をかけてほしいのです。先住部族の人々が住む場所を失わないように。彼らの土地が奪われてはいけません。彼らの生存は土地にかかっているのですから。政府が向き合うべき問題なのです。

#### おことわり

この文章の責任は証言動画の文字起こしを行ったピースボートにあります。オリジナルの証言と完全に一致するとは限りません。オリジナルの証言は2021年12月3日(日本時間)に行われた世界核被害者フォーラム2021にてオンラインで上映されました。このフォーラムはピースボート主催、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)協力で開催され、世界5大陸から30名を超える参加者がそれぞれの核の被害を1000人を超える視聴者に訴えました。証言やパネルディスカッションの様子はYouTubeチャンネルまたはこちらのウェブサイトより閲覧可能です。<https://nuclearsurvivors.org>